

研究主題の設定理由

本園の幼児は決められた環境やルールの中で遊ぶことには抵抗がなく、むしろ安心して、落ち着いて過ごす様子が見られる。一方で自ら考え創り出したり、自分で判断して決めたりする場面では消極的になりやすい。また、興味をもつと自ら関わり、楽しさを表情や動きで豊かに表現するが、夢中になれるような関心事に出会うまでには時間がかかり、結果や評価を気にして一步踏み出せないことがある。これらの実態は、併設小学校においても、失敗を気にしてすぐに諦める、自分の考えを言おうとしないなど、同様の姿が見られる。

こうした実態から変化が急速で予測が困難なこれからの時代を生きる本園の子どもたちに求められる力や望ましい姿とはどのようなものであるだろうか。常に変化する社会に適応していくためには、自ら課題を見付け、考え、判断する等、自ら主体的に行動する姿が望まれるであろう。また、他者と協働する力や、新たな価値のあるものを創り出す力などが必要となるだろう。そのためには、本園の教育活動を通じて、生涯にわたって、自身の力を伸長させ続けられる力の素地を育みたいと考えた。

そこで本園の課題や社会背景を踏まえ、今年度の研究主題を「生涯にわたり学び続ける姿を目指して」と設定し、幼児期に育みたい資質・能力の中の「学びに向かう力」に着目した。これは九段小学校の研究主題「共に考え、学び続ける姿～『学びに向かう力』を高める授業づくり」とも深く関わっていくと考える。幼稚園で「学びに向かう力」を育むためには、幼児期特有の学習である自発的な活動としての遊びに夢中になって取り組む経験が重要である。これらの経験を積み重ねていく中で、「学びに向かう力」を育んでいくための、環境や援助のあり方について研究を深めたいと考え、副主題とした。